

近代の漢訳大藏經編纂と大藏經研究

梶 浦 晉

こんにち日本において漢訳仏典の研究に用いられている基本的なテキストとしては、『大正新脩大藏經』（以下『大正藏』）や『大日本統藏經』（以下『統藏』）などがある。これらはいずれも明治後期から昭和初期にかけて編纂された活字本で、出版以来すでに数十年が過ぎており、今日の学会の要求に充分こたえられない部分があることも指摘されている。しかしながら近年『大正藏』や『統藏』が再版されるに際し、ごく一部補訂を加えるのみで、全面的に改定・増補などはなされてこなかったのが現状である。

これに対し日本においては、各地の寺社に所蔵される古版・古写の大藏經の整理が行われることなどにもとめない、大藏經に対する関心も深まり大藏經研究も盛んになってきている。また中国では『中華大藏經（漢文版）』や房山石經の拓本の影印出版が開始され、台湾では『仏光大藏經』や『文殊大藏經』が編纂され、バークレイにあるマタ仏典翻訳・研究センターでは『大正藏』の校訂作業を基礎に英訳の大藏經の出版が計画されているという。

このような状況のなか、近代に編纂出版された諸種の漢訳大藏經の編纂事情や、古写・古版の大藏經に関する研究の成果を整理する必要性が高まっている。むろんこれまでにも『大正藏』の再版時などに、編纂時の事情を記した文章が発表されることもあったが、回顧談の域を出るものではなく、近年の各種報告や研究成果を充分に活用したものは少なかった。

先にも述べたように今日研究に用いられている漢訳大藏經は一般に『大正藏』である。この『大正藏』については、底本の選定が適切でない、誤読・誤植が多い、編纂以後に確認された新出資料に基づく改定や増補がなされていないなどの批判がある。しかしこれらの批判は編纂当時の事情や、『大正藏』が今日まで学界に果たした役割に充分には留意したものではなかった。この『大正藏』を近代の漢訳大藏經編纂史や大藏經研究史に関連づけて整理考察することは少なからず意義のあることであろう。

近代以降の中国・朝鮮半島・日本における漢訳大藏經編纂史と大藏經研究史、および各種大藏經の特徴を概観すると別表のようになり、問題点として以下のようなことが指摘できる。

I 近代の漢訳大藏經編纂についての問題点

○日本が他に先駆けて編纂し、活字本大藏經の出版が中心である。

○日本では『大正藏』編纂以後、それに対する批判があるものの、新たな編纂事業が行われていない。

○近年中国でさかんに漢訳大藏經の出版が行われているが、古版大藏經の影印本の出版が中心となっている。

○韓国では高麗再雕本の影印もしくは木版摺が中心である。

II 日本における大藏經研究とその問題点

○大藏經編纂のみ多くの研究がなされており、継続的なものは少ない。

○大藏經研究に書誌学の方法や成果が充分には用いられていなかった。

○総合的な大藏經の調査や研究が少ない（異分野の協力に乏しい）。

近代編纂漢訳大藏經関係略年表(稿)

日 本	中 国	朝 鮮	
<p>大日本校訂大藏經〔縮蔵〕〔活字〕 (一八八一～八五)</p> <p>日本校訂大藏經〔正正蔵〕〔活字〕 (一九〇二～〇五)</p> <p>大日本統蔵經〔正統蔵〕〔活字〕 (一九〇五～一二)</p> <p>〔博文閣〕縮刷大藏經〔活字〕 (一九一～一四)</p> <p>大正新脩大藏經〔活字〕 (一九二四～三四)</p>	<p>頻伽精舎校刊大藏經〔活字〕 (一九一～一三)</p>	<p>高麗再雕本大藏經〔木版摺〕 (一八九八)</p> <p>高麗再雕本大藏經〔木版摺〕 (一八九九)</p> <p>高麗再雕本大藏經〔木版摺〕 (一九一五)</p>	<p>日本における主要な大藏經研究・調査・ 目録関連事業等</p> <p>『大明三蔵聖教目録』南条文雄 訳補 (一八八三)</p> <p>『大藏經雕印考』常盤大定著『哲学雑誌』 第三一三号～第三三二号(一九一三～一四)</p> <p>『一切經の由来』村上專精著(一九一五)</p> <p>第一回東京大藏会(一九一五)</p> <p>第一回京都大藏会(一九一六)</p> <p>『大藏經解説』光寿会編(一九二二)</p> <p>『仏教聖典概説』深浦正文著(一九二四)</p> <p>『昭和法宝目録』高楠順次郎・木村省吾編 (一九二九～三四)</p> <p>『大藏經沿革』藤堂祐範著 (一九二九～三四)</p> <p>『高野山見存藏經目録』水原堯榮編 (一九二九～三四)</p>

<p>新纂大日本統藏經〔影印〕 (一九八〇～八九)</p>			<p>『仏書解説大辞典』小野玄妙編 (一九三三～三六) 第一回名古屋大藏会(一九三三) 第一回三河大藏会(一九三四)</p>
	<p>影印磧砂版大藏經〔影印〕 (一九三三～三六) 影印宋藏遺珍〔影印〕(一九三五) 龍藏〔木版摺〕(一九三六)</p>	<p>高麗再雕本大藏經〔木版摺〕 (一九三七)</p>	<p>『吾国現存古版大藏經』朝日道雄編 『ビタカ』第九年九号(一九四〇)</p>
	<p>普慧藏 (一九四四?)</p>	<p>高麗再雕本大藏經〔影印〕 (一九五七～七六) 高麗再雕本大藏經〔木版摺〕 (一九六七～六九)</p>	<p>『高麗版一切経目錄』高野山文化財保存会編(一九六四) 『大藏経―成立と変遷―』大藏会編(一九六四) 『大谷大学図書館第三和漢書分類目錄』大谷大学図書館編(一九六七～六九) 『長瀧寺宋版一切経目錄』文化財保護委員会編(一九六七)</p>
	<p>脩訂中華大藏經〔影印〕 (一九七四)</p>		<p>『喜多院宋版一切経目錄』喜多院編(一九六九)</p>
	<p>仏教大藏經・統藏〔影印・活字〕 (一九七八～八四)</p>		<p>『石山寺の研究 一切経篇』石山寺文化財総合調査団編(一九七八) 『大藏会展観目錄(復刻)―自第一回至第五十回―』大藏会編(一九八一)</p>

近代編纂大蔵経

【日本】

◎大日本校訂大蔵経（縮蔵）〔活字〕

底本 高麗・再雕本大蔵経〔増上寺所蔵本〕
 対校本 宋・思溪版大蔵経〔増上寺所蔵本〕
 元・普寧寺版大蔵経〔増上寺所蔵本〕

黄檗版大蔵経〔増上寺所蔵本〕（一般に明蔵と言われている）

特徴

最初の金属活字（四号活字）による大蔵経
 『聞蔵知津』による配列

宋元明三本の異同を頭注で示す

活字を小さくしたことにより携帯に至便であるが、
 閲読に不便

◎（博文閣）縮刷大蔵経〔活字〕

底本 大日本校訂大蔵経

仏光大蔵経〔活字〕（一九八三）
 中華大蔵経〈漢文部分〉〔影印〕
 （一九八四）
 文殊大蔵経〔活字〕（一九八六）
 房山石経〈遼金部分〉〔影印〕
 （一九八六）

◎日本校訂大蔵経（正統蔵）〔活字〕

特徴 はじめての洋装本、但し未完
 底本 黄檗蔵〔法然院所蔵・麗蔵対校黄檗版大蔵経〕
 特徴 縮蔵が五号活字であるのに対し、四号活字二段組
 で訓点を附す

訓点にままだ誤りがみられるという
 異体字などに留意する
 校訂を頭注で示す

◎大日本統蔵経（正統蔵）〔活字〕

底本 諸種刊本・写本
 特徴 従来の大蔵経に入蔵されていない仏典を収録
 「正蔵」同様訓点を附す

校訂を頭注で記す

◎大正新脩大蔵経〔活字〕

底本 高麗・再雕本大蔵経〔増上寺所蔵本〕
 対校本 宋・思溪版大蔵経〔増上寺所蔵本〕

『増上寺三大蔵経目録』
 増上寺史料編纂所編（一九八一）
 「明代以降における蔵経の開雕」長谷部幽
 溪著『愛知学院大学論叢一般教育』三〇—
 三・四、三一—二（一九八三）
 『御谷法然院所蔵麗蔵対校黄檗版大蔵経並
 新統入蔵経目録』
 仏教大学仏教文化研究所編（一九八九）
 『大蔵経研究文獻目録（稿）Ⅰ』
 野澤佳美編（一九九〇）

元・普寧寺版大藏經〔増上寺所藏本〕
 黃檗版大藏經〔増上寺所藏本〕（一般に明藏と言われている）

宋・福州東禪寺・開元寺版大藏經〔宮内省図書寮所藏本・知恩院所藏本〕

高麗・再雕本大藏經〔金剛峯寺所藏本〕

聖護藏古写本〔宮内省図書寮所藏本〕

その他諸種刊本・写本

特徴
 配列を独自のものにする（大小乗の区別をなくす等）

諸本の校異を脚注で記す

敦煌經などの古逸經典を收録

図像部を附す

洋装本で最初に完結した大藏經

【中国】

◎頻伽精舎校刊大藏經〔活字〕

底本
 大日本校訂大藏經

特徴
 縮藏の翻刻（宋元明三本の対校を省き、日本撰述典籍を未収録）

◎影印宋磧砂版大藏經〔影印〕

底本
 宋・磧砂版大藏經〔西安臥龍開元兩寺藏宋元刊本、

闕卷部分は他の大藏經で補う〕

特徴
 古版大藏經の本格的影印出版

◎影印宋藏遺珍〔影印〕

底本
 金・解州天寧寺版大藏經〔山西趙城広勝寺所藏金

版大藏經〕
 特徴
 従来の大藏經未収の典籍を收録

◎普慧藏〔活字〕

底本
 諸種版本

◎脩訂中華大藏經〔影印〕

底本
 第一輯 影印宋磧砂版大藏經

第二輯 明・嘉興大藏經

第三輯 大日本統藏經

特徴
 諸種の大藏經を集成し影印した大藏經
 明・嘉興藏の一部分が影印される

◎仏教大藏經〔影印・活字〕

底本
 清・頻伽藏、普慧藏ほか諸種版本

◎中華大藏經〔漢文部分〕〔影印〕

底本
 金・解州天寧寺版大藏經〔北京図書館・北京民族

文化宮等所藏本〕

対校本
 房山石經

宋・思溪版大藏經

元・磧砂版大藏經

元・普寧寺版大藏經

明・永樂南藏

明・嘉興藏

清・龍藏

高麗・再雕本大藏經

現存の金版大藏經全てを影印

対校に8種の版本を用いる

收録經典数が多い（四二〇〇余種二三〇〇〇余卷）

◎房山石經〈遼金部分〉〔影印〕

- 底本 北京房山雲居寺石經〔遼金時代開雕部分〕
 特徴 房山石經の遼金時代開雕の經典全ての拓本を影印
 房山石經を通じ契丹版大藏經の状況を知ることができる

◎仏光大藏經〔活字〕

- 底本 高麗・再雕本大藏經
 対校本 明・嘉興藏

清・頻伽藏

日本校訂大藏經（正正藏）

大正新脩大藏經

諸種刊本

◎文殊大藏經〔活字〕

- 特徴 諸種大藏經を参考に編纂

【韓国】

◎高麗再雕本大藏經〔影印〕

- 底本 海印寺所藏高麗再雕本大藏經
 特徴 大藏經補版を含む